

議事 第一号議案

(1) (3)の三項議案は関連項目の為一括上程
(2)平成二十九年事業経過と各部の事業実施内容を片岡賀弘蒼事務局局長が報告

教養広報部・資格審査部・研修部・事業部・渉外部・合吟部・熟年少年部・会計部・事務局
(2)平成二十九年一般会計収支決算を会計部長中島賀黄蘭が報告

(3)平成二十九年度弔慰見舞金他の会計を会計部長中島賀黄蘭が報告
第一号議案の質疑応答前に、山中賀琴会計監査役から会計監査報告。質疑応答に入る。

田中賀月峰流碑管理委員長より、予算案に於いて昨年の物故者に一人の差が有り、確認の質疑有り。事務局と流碑管理委員会との締切による差異との判明により了承される。

Table with 2 columns: Item, Amount. Title: 一般会計 平成29年度収支決算

Table with 2 columns: Item, Amount. Title: 一般会計 平成30年度収支予算

議長より採決。第一号議案は承認可決。

第二号議案

(1) (3)の三項議案は関連項目の為一括上程
(2)平成三十年事業方針を山本賀流理事長より説明

(2)平成三十年度事業計画を各部長より説明
(1)(2)項目とも主要明細を16ページに掲載

(3)平成三十年度予算を中島賀黄蘭会計部長が説明
議案説明後、質疑応答に入る。質疑が無く、議長より採決。第二号議案は原案通り承認可決される。

議案終了により、議長解任後、十分間の休憩。
●平成三十年度 吟功章「故・田村賀峰賞」受賞者 吟功章選考報告を太田賀筵選考委員長より報告。受賞者は次の通り。

◎魚住賀久征(白陽)
昭和五十一年入門。吟歴四十一年。近畿本部理事・常任理事を永年務め、本部行事にも積極的に参加。合吟チームにも参加し吟の向上と研鑽に努めている。近畿本部宗家賞の経歴を持つ。所属吟詠会に於いても会計を四期担当、現在は理事として会の運営に貢献。

◎町田賀陽妙(しらすぎ)
昭和五十五年入門。吟歴三十七年。近畿本部理事一・五期、参事三期を務め所属吟詠会では理事・幹事・参事と永きに務めている。県連や本部の競吟に積極的に参加し挑戦して吟の向上に努めている。所属吟詠会に於いては、支部の中心となって積極的に活動。婦人部活動にも尽力されている。

◎田内賀征真(北辰)
昭和五十九年入門。吟歴三十二年。会員五名指導。近畿本部理事、常任理事を永年務め、現在参与。指導者の道に励まれ、会員育成に情熱を傾けるかたわら、所属吟詠会の幹事として尽力され、会の発展に多大に協力された功績は大である。

◎吉本賀耿幸(東播)
昭和五十六年入門。吟歴三十六年。姫路朗吟会の理事を四期務め、所属吟詠会の理事を五期務め持ち前の温厚な人柄は会員の信望も厚く会の運営に貢献されたその功労は大である。

◎河端賀強雄(上郡)
昭和五十五年入門。吟歴三十七年。姫路朗吟会本部広報部員二期務め、近畿本部理事、現在は常任理事として活躍。所属吟詠会では事業部長を永年務め、平成二十八年より会長に就任。人望も厚く会員から信頼されている。会の融和を図りながら吟の向上を図る為、研修会や発表会を実施し積極的に会の発展に尽力されている。

◎徳平賀鶴千(東播)
昭和六十二年入門。吟歴三十年。姫路朗吟会の理事を四期務め、現在常任理事。所属吟詠会では理事を四期務め、現在副会長に就任。会員の信頼も厚く豊かな指導力で会の発展に献身的に協力する姿、その功績は大である。



●三十年度指導者表彰 藤木 賀望(赤穂)



●祝辞 宗家
ご臨席の宗家より祝辞を頂く。
●閉会の辞
高木賀崇峰副会長より全議案の承認を得て、平成三十年度の事業が本日から始まった旨の挨拶で閉会となる。また、総本部理事長の立場で、参加者全員が賀堂流役員であることを再認識して頂いて、「濤聲の賀詞交換掲載」への参加協力を強く呼びかけられた。

山下賀久峰元老より力強い万歳三唱で総会を全て終了。
(以下祝辞と閉会の辞の具体的な内容は上記の要約に基づき補完)



年頭挨拶 宗家賀堂 磯部



新年明けましておめでとうございます。皆様方も気持ち新たに輝かしい新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。本年も吟詠に親しみ、心豊かな人生を心掛けて頂きたいと思ひます。

好天に恵まれて平成三十年度近畿本部役員総会が多くの役員・執行部の皆様出席のもと諸事業が承認されて、スムーズにこの一年のスタートが切られましたことをお喜び申し上げます。

昨年、近畿本部として創立五十年という大きな節目の年であり、十月二十八日の記念大会は石見姫路市長を始めとするご来賓と大勢の招待者を姫路市文化センター大ホールのお会場一杯に迎えられて、「未来へはばたく 賀堂吟」のタイトルのもと盛大に開催されました。吟道賀堂流近畿本部創立以来の諸先輩方の遺志を継承した良き伝統と役員・会員の皆様方のご尽力が開花した素晴らしい大会に仕上げてください。

しい大会に仕上げてください、有り難うございました。

また、対外活動では兵庫県吟剣詩舞道祭ふれあいの祭典で男子合吟が優勝・三連覇、女子も準優勝、全国吟詠コンクール幼年の部で木山咲良さんが優勝されるなど多くの会員の皆様も活躍され、賀堂流の名声を高めて下さいました。

地域での行事に於いても湊川神社・播磨国総社・姫路護國神社等での奉納吟、姫路城観月祭・姫路吟剣詩舞道大会や各地域の行事に積極的に参加して、地域文化の貢献にも努めて頂きました。また、賀堂流総本部の吟士権大会・機関紙濤聲発行にもご協力を頂き無事終えることが出来ました。日々多忙な中での稽古、献身的なご奉仕・ご協力に心より御礼申し上げます。

さて、吟剣詩舞道界は高齢化と会員減少傾向の厳しい環境ですが、広島県の福山まで指導に行かれている先生や、東京に会員を持って会の発展を目指している吟詠会があります。この様な指導者の熱意や人との繋がりが、良いご縁・出会いを大切にしたい地域を超えた取り組みが、今後の更なる発展を図る大きな力となると期待しております。

待しております。またホームページの充実と共にユーザー等を活用した情報発信も大切ですが、賀堂流発展の根底となるのは、近畿本部並びに各吟詠会の充実と発展に尽きると思ひます。本年も数多くの行事が計画されていますが、出来る限りのご参加、ご協力とご支援をお願い申し上げます。一人でも多くの吟の仲間づくり、輪の広がりを会員の皆様と共に取り組んでいきたいと思っております。昨年の記念大会に来て下さった方々へのフォローを丁寧に行って頂くことなど、更なるご協力を宜しくお願い致します。

昨年の県連一部本選では三名の方が敢闘賞(八十歳以上)を受賞され、下田賀誠さんは入賞されました。何事も「やり続ける、自分で限界を設けない」ことが大事で、健康に気を付けて前向きに取り組んで活躍して頂きたいと思ひます。

創立五十一年目がスタートします。近畿本部が更に発展されますこと、新しい年が会員の皆様とご家族の方々にとりまして幸多き年となりますよう、ご祈念申し上げます。

賀堂流近畿本部創立50周年記念大会 収支報告書 (単位:円)

Table with 4 columns: Category, Amount, Category, Amount. Title: 収支報告書

●お楽しみ抽選会
 本年の茶話会は、熟年少年部のお世話で進行。お楽しみ抽選会は、当たり前番号発表の度に、本人と周囲から喜びの歓声が湧き上がり、本年度の先行きの勢いを感じさせる一時であった。

一等賞に続いて魚住会長の焼き鯛、宗家の特別賞が当たった方の笑みは、本年の運の良さの喜びが隠し切れない様子であった。最後に参加賞が配られ、楽しい茶話会は終了。全員で会場を片付けて散会。



お楽しみ抽選会と参加賞の配布



県連・総連・財団関係上位成績

- 兵庫県吟詠連盟・総連盟・愛連関係
 - 県連一部吟士権大会
 - 一次予選 三月二十六日(日) 合格/一三〇名 出吟:一九二名
 - 二次予選 五月七日(日) 合格/七十九名 出吟:一二六名
 - 三次予選 六月十一日(日) 合格/三十九名 出吟:七十九名
 - 一部本選 七月九日(日) 尼崎アルカイツク・オクトホール 上位入賞
 - 村山涼子、大川知子、桑名淳子、藤井洋子、室江順子、藤本きよ子 入賞
 - 高井 進、井上久美子、熊谷愛子、高井康博、小藪真由美、下田暎一、木下さゆり、山中敏昭、千古睦美、小野美津代
- 愛連一部 吟士権者決定大会
 - 九月十七日(日) 尼崎アルカイツク・オクトホール 入賞 村山涼子、田中 静、藤井洋子、福井幸子
- 県連二部 吟士権大会
 - 二部本選 七月二日(日) 上位入賞 名村賀洋緑、盛満賀石滯 入賞
 - 片岡賀弘蒼、吉田賀忠、山端賀鶏、上田賀林和、中島賀黄蘭、太田賀筵、吉田賀祐篁、小田賀烽、福田賀穂陽

第八回兵庫県ジュニア・シニア燦燦優勝者決定詩吟大会

- 四月十六日(日) シニアの部 決勝
 - 五位 小田賀烽
 - 六位 山中敏昭
 - 上位入賞 門田信子
 - 入賞 久保田武雄
- 第九回ジュニア・シニア燦燦優勝者決定詩吟決勝大会 七月三十日(日) シニアの部
 - 入賞 山中敏昭、門田信子
- 第三十五回壮年三部(七十才以上)
 - 五月十四日(日) 決 勝 十八位 山中敏昭 上位入賞
 - 小田博己、片岡健郎、山端一男 入賞 藤原照代、中野昌子、藤本保雄、古川文字、藤原千代子、佐々木由紀子、古石暎子、岸本邦男、井上久美子
- 第三十五回壮年二部(五十五才以上)
 - 五月二十一日(日) 決 勝 準優勝 村山涼子 上位入賞 盛満真弓、福井幸子 入賞 森田幸代、吉田秋良、板倉淳子、吉田正信、津田勝正、藤井洋子、上田和郎、小藪真由美
- 第三十九回少年部大会
 - 五月二十一日(日) 幼年の部
 - 金賞 横山百音、横山昇馬、井上貴博
 - 四位 木山咲良

公財)日本吟剣詩舞振興会関係

- 第四十一回吟詠コンクール近畿決勝大会 八月六日(日) 高槻現代劇場
 - 幼年の部 二位 木山咲良
 - 一般二部 五位 盛満真弓 入賞 福井幸子
- 吟詠コンクール全国大会決勝大会 九月十八日 笹川記念会館
 - 幼年の部 優勝 木山咲良
- 第四十九回全国吟剣詩舞大会 十一月五日(日) 日本武道館
 - 幼年の部 木山咲良 (全国コンクール優勝者披露)

連絡事項

- 会長変更
 - ◎あおい吟詠会
 - 古川賀粹峰 ↓ 杉垣賀研道 千六七〇―二四二二
 - 姫路市安富町長野一〇七―一〇七九〇―一六六―三五七八
 - ◎神戸吟詠会
 - 井川賀擘 ↓ 藤本賀擘昇 千六五一―二二三一
 - 神戸市西区戸谷町寺谷二八五 千〇七八―九九一―一〇八三
 - 北播吟詠会
 - 山端賀鶏 ↓ 柴田賀洵翔 千六七五―二四五六
 - 加西市若井町四四七 千〇七九〇―四四一―一五八一
 - 松柏吟詠会
 - 清水賀操 ↓ 福田賀昭州 千六七一―二二二四
 - 姫路市西夢前二丁目一六六 千〇七九―二二六―〇四九六

賀堂流総本部役員総会開催

三月二十一日(春分の日)流碑祭後の午後、姫路護國神社会館に於いて、吟道賀堂流総本部役員総会が開催される。平成二十九年度総本部事業報告並びに総本部収支決算・流碑管理委員会収支決算報告。平成三十年度総本部事業計画及び収支予算・流碑管理委員会収支予算をいづれも承認。その他として第二十八回吟士権大会の変更事項、第二十九・三十回吟士権大会の指定吟題、姫路護國神社建立八十周年・明治維新百五十年事業計画への奉賛、平成三十年度登録会員数が報告された。

第五十五回 賀堂流碑祭

平成三十年三月二十一日春分の日、午前十一時より兵庫懸姫路護國神社で式典を開催。準備時は寒い雨降りであった。式典開始近くになり雨も止んだが、今年の本殿で斎行。

定刻に三木賀健僊総司会で、「賀堂流会詩吟吟」を高木賀崇峰総本部理事長のリーダーで全員合吟奉詠。続いて田中賀月峰流碑管理委員長の開式の辞で式典が始まる。

神官参進より神事に入る。修祓後、功労物故会員の銘板が神官より高木賀崇峰に手渡され、倉持賀喬寛の先導により遺族代表川口さんの三名で十柱の銘板を流碑安置堂へ奉安。現在の功労銘板奉安数は二七六柱。

献饌・祝詞奏上に続き、宗家祭文奏上。前年度吟士権者大川賀宝穂による「輓吟詠師範儀部賀堂君」を献詠。玉串奉奠、撤饌、神官退下で神事を終えた後「寄賀堂流碑」を魚住賀久リーダーで全員合吟奉詠。宮司より毎月の流碑清掃作業等に対するお礼と姫路護國神社建立八十周年・明治維新百五十年等節目の年に当たり諸行事の参加と奉賛の協力要請を話された。閉式の辞を本庄賀秀峰京都本部会長が述べ式典を終了。

第二部奉納吟は、北辰吟詠会(当番)に続いて近畿本部男子・女子、中国本部、京都本部と順次吟じる。遺族記念撮影は、流碑前の足元の

状況が悪く社務所前で行う。当番吟詠会のお世話により甘酒を頂きながら三々五々談笑して散会。

功労物故者名

- 宗 範 西村 信治 (賀 鷲)
- 大師範 天野小夜子 (賀上夜)
- 総師範 本間茂登子 (賀黄玉)
- 総師範 喜多つや子 (賀董艶)
- 宗 範 井川 照代 (賀 擘)
- 総師範 恒藤 馨 (賀 僚)
- 上師範 宇崎みやゑ (賀麗宮)
- 大師範 岡本貴美子 (賀恭陽)
- 宗 範 川口 直 (賀 崇)
- 総師範 神田 茂 (賀 柑)



流碑祭にて献詠

前年度吟士権者 大川賀宝穂 「流碑銘板奉安功労物故者」の皆様方の御霊に、謹んでご冥福をお捧げいたします。当日は生憎の天候でしたが、多く



の方が参列され、第五十五回流碑祭が、姫路護國神社本殿で開催されました。三木賀健僊先生の総司会により進行され、宗家の「祭主祭文奏上」に続いて献吟の時がやって来しました。昨年は、会詩合吟の先導役として賀堂流碑前に立たせて頂きましたが、今回は、献吟という大役をいただき、神殿の静寂の中で、今まで感じたことのない緊張感とご遺族様方の想い、ご宗家、ご参集の諸先生方の熱い視線を感じました。賀堂流初代儀部賀堂先生を始め、今日まで引き継いでこられた諸先生の霊に届く様にと心掛け、気を引き締めて吟じさせて頂きました。

この度のお世話役の北辰吟詠会の皆様には、色々とお世話になり、美味しい甘酒で心も体も温まりました。有り難うございました。

私の所属している赤穂吟詠会の御同行の先生方や吟友の皆様には、いつも優しく見守ってくださる事に大変感謝しております。これからも吟で通じた御縁を大切に、より一層精進していきたい。

最後に、この様な名誉ある経験をさせて頂きました事を心から感謝申し上げますと共に、これからも今まで以上にご指導、ご鞭撻を宜しくお願ひします。

平成29年度収支決算	
①前年度繰越	2,935,062円
②賀堂流基金より	1,000,000円
③年度収入額	1,416,589円
④総支出合計	▲3,392,669円
⑤次年度繰越	1,958,982円
(計算⑤=①+②+③-④)	

平成30年度収支予算	
①前年度繰越	1,958,982円
②賀堂流基金より	600,000円
③年度収入額	1,501,000円
④総収入合計	4,059,982円
(計算④=①+②+③)	

連絡事項

- 第二十八回吟士権大会の各部出場者数変更
 - 大会時間短縮のために削減する。
 - 一部(初伝、奥伝)二十五名→二十二名
 - 二部(段位、師範代)七十七歳以上)二十名→十八名
 - 三部(師範代以上)四十八名→四十三名
 - 四部(五人合吟)五部(和歌俳句)は変更なし
- 平成三十年度総本部登録会員数
 - 総 数 一、一八二名
 - (一般:一、一三一名 少年:五十一名)
 - 内 訳 (少年含む)
 - 無資格:二一六名、初伝、奥伝:二二三名、幹事:二五八名(四)段:師範代、準師範、理事:三八九名(修士:師範、大師範)、常任理事:九十六名(総師範:宗範)

五十周年記念大会役員祝賀会

平成二十九年十二月九日(土)十四時から「ニューサンピア姫路ゆめさき」に於いて開催。藤尾賀承順熟少年部長の総合同会で進行。

魚住会長挨拶において、近畿本部創立五十周年記念大会は、一昨年から準備を積み重ね無事に且つ、盛大に記念大会が遂行出来たのは、大会役員皆様の献身的な絶大なるご尽力のお陰と厚くお礼を言われた。また、全会員の協力が有り会場内が常に満たされた状態は、これまでの大会会場とは違った雰囲気の中で、出演者全員が楽しみ、練習時以上の力が発揮されていた様子と称賛された。本日の大会祝賀会は、五十周年大会と例年の執行部反省会を含めて、時間の許す限りゆつくりとご歓談下さいと締められる。

続いて宗家の挨拶では、石見姫路市長・中杉姫路市教育長の出席を頂き、両氏の素晴らしい祝辞により、大会に華を添えて戴いた旨と本日参加されている役員を労われた。他の色々な記念大会と比較しても、この度の記念大会の構成は他に類を見ない素晴らしいものであったこと。具体的に、大会の翌日に撰補流創立七十周年記念祝賀会の様子との比較で、招待者数と会員数は及ばずも、一般客の入場者数ははるかに勝り、参加者全員が舞台を楽しまれたことは、これまでに見たことの無い



恒藤 賀僚先生を悼む

享年80歳
平成29年11月16日 永眠

教養広報部 溝内賀勝弘

私と先生とは執行部の活動を通して長い付き合いをさせて頂きました。総本部の教養広報部で活躍され、近畿本部の教養広報部でも長年に亘りご尽力されました。

姫路朗吟会時代から近畿本部で広報部(その後教養広報部)の仲間として、歩こう会・歴史の散歩道バス旅行・教養講座・機関誌(濤聲・きんき)の発行など数々の思い出が走馬灯のように脳裏をよぎります。

先生の訃報を知って、賀堂流にとって大切な人材を喪失したことに愕然としました。もつと吟界に貢献して頂きたかった。

先生の人柄は、皆さんもご承知のように決して他人のことを悪く言うことはなく、穏やかな物腰に私はいつても敬服していました。特に記録用にビデオ撮影をされて、

多くの作品を残されました。まさに記録の極みを追求された人でした。先生の作品が多くの皆様に残されるように、賀堂流のホームページに保存され閲覧することが出来ます。是非これを機会にご覧になって下さい。先生が遺したビデオ作品は色々あることにはない。いつまでも先生の作品が私達を愛する者に喜びを与えてくれることでしょう。

奥様も同じ吟を楽しまれていて、教養広報部の活動には、いつもご協力下さり夫唱婦随のお手本でした。奥様も吟の仲間を信じて、一日も早く吟声をお届けされるよう祈っています。若輩の私をいつも引き立てて下さり、献身的に行事のお世話されたことは忘れることは出来ません。元気な姿を見せるために、ご病気と闘い、皆様の前に出たいとの一念であったと奥様が語られていました。

先生の慈愛に満ちた眼差しは、私達の心いつまでも生き続けます。今はゆつくりされて、私達会員の活動を見守って下さい。本当にご苦労様でした。

教養広報部 小島賀征堂

恒藤先生はいつも穏やかで、相手を大切に丁寧な話し方をされるので、

感謝

合吟チーム

平成29年度 打上げ会



平成二十九年十一月三十日(木)十八時から「まねき」に於いて、田中賀月峰総合同会により「二十九年都合吟チーム打上げ会」が磯部賀堂宗家・幹部役員及び各部長等の参加のもと盛大に開催される。

山端賀鶏合吟部長より、一年間の合吟チームの各行事への参加及びふれあいの祭典で男子優勝・女子準優勝、事故もなく無事この日を迎えられた労をねぎらった開会の挨拶。

魚住会長よりメンバー総勢七十七名の参加者にお礼の言葉。三月から十月までの練習と各種行事への参加活躍、ふれあいの祭典での好成绩が賀堂流を不動のものとしていること。一年を振り返って、指導者の先生・宗家の支援・家族のご理解あつての今日の喜びが味

わえると感謝の気持ち述べられ、次年度に於いても多数の参加者と新加入者への誘いを念じて挨拶を終えられた。宗家の挨拶では、出席者への労を労われ、賀堂流の合吟チームの素晴らしいことは、他の会派からも羨ましがられていると。来年も多くの方に働きかけ、同じようにこの喜びの場を持てる事を期し、時間の許す限り歓談頂く様にと。指導の先生にお礼の花束贈呈後、記念写真。石井副会長の乾杯発声で祝宴に入る。頃合いを見て、かくし芸やカラオケで楽しい時間を過ごした。

平成30年度 発会式開催

三月一日(木)十九時から「姫路市すこやかセンター」に於いて、磯部賀堂宗家・魚住会長及び幹部役員が参加を得て開催。今年の『ふれあいの祭典』が三十周年記念大会に当たり九月九日に開催される為、これに照準を合わせて、例年より一ヶ月早いスタートとなった。

魚住会長挨拶の冒頭、大久保さんと上地さんの訃報連絡で、最初に黙祷を行い、二人のご冥福を祈る。その後、昨年のあらゆる行事に対して合吟チームの活躍を称えられ、本年も賀堂流の看板として各事業に参加活躍を願う、また、事故なく、参加者及びご家族が健康で過ごされるようにと激励された。

宗家の挨拶では、第十回近畿本部合吟チーム発会式に多くの参加者を得て開催に祝福の言葉。昨年の合吟チ

ムの活躍ぶりを懐古される。冬期オリピックで日本の活躍ぶりと、普段の努力の結晶・チームワークの良さと感じたく試合に挑んでいた様子に感動を覚えたことを例に、今年も、十一月までの長丁場に対して無事故と参加者の健康を願う、多くの行事での賀堂流ここに有りの活躍を期待しての祝辞を述べられる。

続いて、名村合吟部員より参加役員先生の紹介。山端合吟部長より、本年度の活動予定の説明。指導者先生の紹介と挨拶。

○小林 賀雷(男子合吟指導)

昨年は一時療養の為中断があったが、本年は、皆さんと一緒に楽しみながら、大きな声を力一杯出して健康で事故なく、協力を得ながら責務が果たせるように。

○八木賀崇桜(女子合吟指導)

声を出すことは健康につながる。長丁場とはいえ、心して掛からないと一日一日が早く過ぎてしまう。チャンスがあれば、色々な競吟大会等に挑戦するという目標を持ち、練習することが上達に繋がり、その成果が出てくるものと思われる。楽しく練習出来ることを願っています。

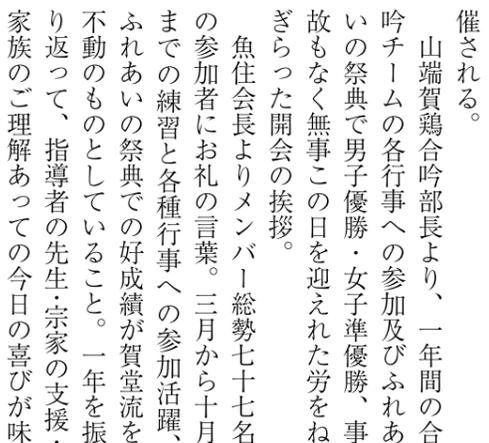
○山端 賀鶏(男子選抜指導)

長い間合吟チーム部長の立場から指導の担当になっているが、魚住会長が控えておられるのでコーチの立場として頑張りたい。男子チームは練習もさることながら、本番では練習以上の力



出来栄で大変良かった。また、撰補の先生から「五十周年記念大会は、良い仕組みを考えられ、賀堂流にはやり手がおられますね」。参加者が一体となつてそれぞれの役割を果たした成果と褒められた。

肥塚賀禮副会長の乾杯の発声で祝宴に入る。大会各担当部長より実施報告と感想、次年度への抱負を述べられ、誰もが大行事をやり遂げた気持ちがあつてか、会場内が盛り上がり、カラオケ・即席寸劇等で明るい談笑の楽しい時間を過ごす。





多くあります。吟の稽古を怠りなく行うことを審査員として学ばせて頂いた。新年早々の大会で参加の人数を気にしていたが、欠席者も少なくほっとする。会場は張り詰めた空気があったが、皆さん和気藹々で吟詠をされた。先生方による大会講評や成績発表があり、余興の時間となる。楽しい時間を過ごし最後に万歳三唱で大会も終演を迎えた。午後三時三十分片づけも終えて散会し家路に着いた。私はこの大会を通じて、吟の道を極めるには未だ道半ばの感を強く抱きました。日々吟の練習に励んでいく所存です。

新春初吟会 早朝の雪に驚く

賀峰吟詠会 溝内賀勝弘

新春の一月二十七日早朝の雪にびっくりした。姫路市内での雪景色は大変珍しく、カメラマンにとつて姫路城の写真撮影の絶好の機会だ。そんな時期、姫路護国神社にて賀峰吟詠会の新春初吟会が開催。私は準備の役割で八時三十分分に会場に着く。駐車場係の誘導に従い所定の位置へ駐車。風船ゲームや景品を運ぶ。会場の護国会館二階はテーブルが整然とセツトされている。清々し



い雰囲気だ。十時の開会宣言。司会の三木さんの発声で会は始まる。国旗・国歌・黙祷と進む。会詩合吟を全員で会場一杯に響かせる。開会の挨拶は飯塚先生。「寒波のかご出席に感謝。昨年の記念大会は皆さんの協力で無事に終えた。招待者の数も多く喜んでくれた。一人一声を促進しこの大会をチャンスにして会員の募集に結び付けてはと願う」吟詠に移る。トップは朗読「あたりまえ」昨年急逝された喜多さんの好きな詩です。一緒に稽古された白井さんが朗読される。心打たれる内容に会場もしんみり。「宝船」都出さんの高音が会場に響く。和歌の部では「青葉の笛」清水さんが詩情を込めて詠う。名倉会長挨拶「三年ぶりの初吟会に参加できました。宗家の顔が見えないのが少し寂しいです。昨日からの歯痛

も朝になると引いていた。六時に外を覗くと雪でびっくり。その後天気も回復して晴れる。皆さん正月気分が残っていますが、春からの各大会に向け出吟され頑張ってください」吟詠二部。合吟で富士山を七曜会のメンバーで。年輪を感じさせる吟声だ。目出度い「松竹梅」を森崎先生が。安定感のある吟詠に会場も締まる。高木先生が「送汪倫」名倉先生が「和歌一首」山下先生が「和歌一首」で吟詠の全てが滞りなくエンドを迎える。閉会のことばを上村先生が。本殿前で砂川先生が記念撮影。総勢三十名が三段に並んで撮影。毎年このことですが、良い記念になります。流碑の前で奉納吟詠。「九段の桜」を合吟する。護国会館に戻って懇親会がスタート。各種のゲームに興じながら楽しく食事を頂く。カラオケが始まり、得意の喉を披露する人もいて時間の過ぎるのも忘れる。新入会員も一人参加され将来が楽しみです。姫路城下のロケーション抜群の護国神社での新春初吟会も終演の時間となった。「雪が降り」

白亜のお城と コラボする」

定期総会と賀堂流碑の清掃

備州吟詠会 山崎賀楼明

平成三十年二月十八日、備州吟詠会は邑久町中央公民館で定期役員総会を開催。前日には冬季オリンピックで初

の金メダルが羽生選手の活躍でもたらされる。日本中が湧きかえる。負傷を押し出場で連覇。六十六年ぶりの偉業だ。感動の輪が広がる。当日は珍しく穏やかな日差しを浴びて、紺碧の空に浮かぶ気球に春の息吹を感じる。定刻の十五分前に開会。会長の挨拶に始まり事業報告は宮本事務局長が資料に基づき説明。併せて本部事業の内容も。決算報告は奥田会計担当から。効果的な支出、総合的な配慮に工夫が見て取れる。監査報告は山崎賀楼邑監事から説明承認される。事業計画は、懇親発表大会、流碑清掃、本部事業の積極参加、教室での練習継続、各種大会へ参加、公民館の文化祭、吟剣詩舞道大会、生涯教育など地域密着の活動展開、最後に会員増加へ努力を説明された。

その後承認となる。提案議案が原案通り決定に感謝。報告の中で特に印象に残ったのが流碑の清掃奉仕である。小雨のなかで決行。水の便も良く、ホースを使って作業は能率よく終える。サウンドリピーターの漢詩を拝聴。富士山を合吟奉納する。宗家から現行の譜節とは若干変化しているとコメントを頂く。護国会館の二階で宗家の講話を拝聴。世界文化遺産姫路城下、姫路藩校で栄えた詩吟を伝承する。初代宗家が豪壮幽麗な吟法を創始。昭和十一年NHK全国大会で第三位に入賞。全国にその名声を馳せる。吟詠活動は海外にも及び皇軍慰問吟行中に山西省で



急逝。軍属として英霊は靖国神社に合祀される。流碑は流祖の偉業を讃え永遠に顕彰すべく流門一同協力し昭和三十八年三月建立し現在に至る。多忙の中の貴重な時間を私達の為に賜り深く感動し心から感謝いたします。生涯忘れぬ流碑清掃となった。帰途には記念大会構成吟の打ち合わせで上郡山の里公民館へ。河端会長始め福井事務局長の企画構成。リーダーの下男女別合吟、凛々しい少年吟士、気魄の籠る吟扇舞に自信を確認。感謝の気持ち伝える。この日に大会のプログラムが配布。偶然に一ページには流碑の写真が写っている。少なからず心を動かされた一日でした。

伊勢支部・創部四十周年

白陽吟詠会 原田賀鈴喜

平成三十一年初春を迎え、お正月気分も少し落ちてきた。そんな一月九日、私達の伊勢支部では姫路市林田町にある伊勢公民館において、吉永賀鈴



先生の賀鈴会四十周年並びに初吟会を開きました。先生の若い頃からの長年の積み重ねに会員は驚嘆しています。前回の三十周年は会員も多くいました。盛大に開いたことが懐かしい思い出です。吉永先生の実家のある伊勢の地で教室を持たれ、幼稚園児小学生の子供さんも習われていた。ご苦労があったと聞いています。会員も齢を重ね病氣療養の方もおられる。今はお休みの方も特別に参加され力強い吟を聞いたことが嬉しい出来事でした。生徒一同から先生へ感謝の気持ちを込めて、祝辞を述べ花束や記念品を贈呈しました。先生から「お蔭様で色々苦労もありましたが四十年頑張ることができました。私の稽古を待ってください皆様にて育てて頂いたと思います。感謝いたします」と挨拶がありました。お返しに京都から取り寄せた正月に相応しい花びら餅を頂戴しました。吟詠が始まる。賀鈴会の会詩「洞城郵落

翠嬋娟 師弟吟風自浩然 先哲詩篇長嘯處 正聲推獎賀鈴筵」からスタート。絶句・律詩と二題セットして吟詠しました。日頃の練習の成果が遺憾なく発揮されていた。嬉しいニュースを紹介しました。すっかりと吟詠され頼もしく思いました。終演を迎え公民館を後にして昼食の富貴寿司へ場所を移しご馳走に舌鼓しました。昔話に花を咲かせ時の過ぎるのも忘れるくらい。お互いの健康と今後の健闘を約束してお開きとした。歌いたりないのか、カラオケの店に足を延ばして興じる人もいて楽しい一日を過ごしました。

新春初吟会 宗家をお迎えして

上郡吟詠会 福井賀邦幸

平成三十年一月二十七日(土)、上郡町の湯田温泉上郡荘において、会員二十七名の参加で新春初吟会を開催しました。初めて来賓に磯部賀堂宗家をお迎えし、会員一同喜びと身が引き締まる貴重な時間を過ごしました。まず始めに河端賀強雄会長の挨拶。相談役の小寺賀藤先生が作詩された「上郡吟詠会詩」を会員全員が力一杯合吟し初吟会は始まる。会員の吟詠では、新会員の天城妃奈さんと剣舞を披露した寺内郁美さんが発表。昨年より詩舞を始めた横山百音がお母さんの吟詠で詩舞を披露された。皆さんは宗家の前というこ



賀少先生を来賓にお迎えする。会員の四十四名が参加して賀紫陽会会詩の合吟で午前の部が始まる。各支部の合吟や独吟など日頃の練習成果を遺憾なく発揮され披露しました。各地での吟詠大会で役割が果たせるよう受付・連絡・進行・音響・司会など役員を予め決めて臨む。大会がスムーズに進行するよう各自が責任をもって務めている。まさに、この会はこれから各種大会へ出場する者にとって絶好の練習の場になり、新入会員や大会へ出場されない方には、日頃の練習の成果を試す良い機

長い但馬の冬はいつになつたら終わるのでしょか。歳のせいかな身体に堪えます。今年の和田山地方は、雪は少なめでした。でも水道管の凍結で大変な目に遭いました。詩吟の方ですが、指導者の先生のご都合で余り出来ない状態でした。しかし今年に入ってから毎回一回という事で楽しみにしています。毎回午後一時三十分から二時間の予定です。最初の一時間は皆さんのおしゃべりで満開です。短い練習時間ですが一人ずつ声を出して先生の指導を受けます。私は平成から詩吟を始めました。先生の美しい声に感動し詩吟ってこんなにも奥深いものかと。今では生

但馬の山道を歩き吟声を

但馬吟詠会 吉田賀則美

会の場になっています。午後の部は、美味しいランチを堪能しながらの懇親会。お酒が進むにつれ各テーブルでは支部を超えた楽しい会話が弾む。カラオケの時には、吟詠の際にはないリラックス感が漂う会員の姿。ビンゴゲームでは役員が用意した景品もあり何が当たるかハラハラドキドキ状態。次々と読まれる数字とにらめっこでした。「賀紫陽の華」を全会員が合唱し今年も無事に楽しい会を終える。私達賀紫陽会の特徴は、会員の「仲の良さ」です。これからも会員の団結力で明るく楽しく吟詠の出来る会にしていきます。

平成三十年二月十八日(日)、賀峰吟詠会峰勝支部一行は姫路市船津ふれあいの館へ向かう。姫路市教育委員会主催の北東部ブロック交流発表会が開催。十三時から十六時まで。リニューアルされていて音響も素晴らしい。八つの公民館が合同して開催。大正琴やフラダンスやギターでの合唱、詩舞では近江八景が演じられた。山田公民館で活動しているメンバーで。さて私達の構成吟は「川中島の両雄」。兜をつけてベストを羽織って熱吟する。花田公民館の館長補佐に協力を仰ぐ。馬の小道具を使って

交流発表会へ出演

賀峰吟詠会 中野堂修保

活の一部になっています。山道を歩き声をお腹から力一杯出す今日の頃です。



私達赤穂吟詠会は、東は西宮、西は広島と広範囲に亘り会員がいます。合

赤穂吟詠会 藤木 賀望

赤穂吟詠会 藤木 賀望

の演出である。「甲斐の山々陽に映えて」が始まる。舞台上に観客の目が注がれる。約一年前から練習に励んできた。写真をご覧いただければその辺の雰囲気も味わえます。「想い見る犀川の暁煙をこむるを」で終演となる。七人が力を合わせてやり終えたのが印象的でした。午後の部では童謡のコーラスや三味線で秋田節やりんご節もあって、聞いて見て楽しめる内容で年齢を感じさせない若々しさが漲っていました。私達の練習場である花田公民館で会員が増えるのを祈って稽古に研鑽しています。



こころは一つに

赤穂吟詠会 藤木 賀望



ともあって少々緊張気味だ。でも気合十分で熱吟が続く。磯部宗

家の挨拶で、上郡吟詠会との深い繋がりをとお話しされ、平成五年に近畿総本部会長に就任した故竹内賀孝会長との邂逅を懐かしく語られ当時を思い出させる機会を頂きました。有難うございます。少数の会員で全員が役員のフル活動。バタバタしたのが恥ずかしい次第です。会場は昨年の祝賀の会で使用したところ。和室ですが使い勝手の良い会場です。マイクスタンドや演台を各施設から借用し準備しました。手作り感満載の大会でした。茶話会の時間です。会員がカラオケに興じる。日頃は歌うことがない方も頑張つて歌っています。宗家の歌声も聞くことが出来ました。皆さん感激の



表情でした。河端会長がいつも会員に話されている「上郡吟詠会のモットーは、吟詠を愛し吟に魅力を感じる者同士が、和氣藹々のなか稽古をし趣味を通じて親睦の輪を深め吟道の精神を発揮して立派な吟詠会づくりをすることです」と。私達会員は会員の減少を食い止め子供達若い吟士の育成に心がけて、老若男女が健康で楽しく毎日が送れるよう努めていきたい。最後に万歳三唱で終演の時間となる。

研修会を契機に吟の向上を

北播吟詠会 三船賀美博

春とは名ばかりの寒い二月十八日(日)、北播吟詠会の研修会が福崎町八千種研修センターで開催。二十三名が参加した。会場の準備や受付をこなして十時三十分北播吟詠会詩を合吟する。会長挨拶に続いて講師の紹介。本部審査員である山端賀鶴・柴田賀洸翔の先生から実施。二十九・三十年度課題吟集から予め希望吟題を選んで申し込む。独吟を一人ずつ指導されるスタイルで。全員で発声の練習。段位のクラスから吟じてアドバイスを頂戴する。大きく口を開ける。発声では声を前にとばす。言葉ははつきりと。正しい姿勢で吟じる。アクセント・音階の緩和が必要。上郡吟詠会の福井賀邦幸さんの「吟道大学に参加して」を引用して、日々の



の勉強会を開催。今後の会員の活動に役立てるため、詩吟の基本内容の確認並びに音階について知識の向上、全体のレベルアップを図る目的で実施しました。講師は小川賀淳豊先生です。まず基本音符のとり方から始める。七言詩・五言詩の区切り方の説明があり、漢詩読み下し文の比較と確認について学習しました。参加された会員全員が熱心に拝聴していました。受講したことで今までの疑問が解決して理解出来たことに喜びを感じていた。詩吟の奥深さを知ると同時にその難しさを痛感しました。短い時間ではありましたが、中身があつて実り多い時間でした。この貴重な体験を忘れず今後も継続して吟の練習に励んでいきたいです。

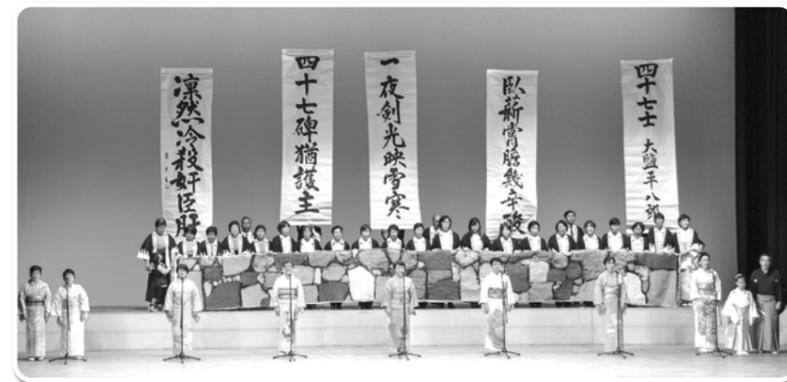
仲の良さと団結力で

賀紫陽会

白陽吟詠会 桑名賀紫淳

勉強会の開催 太子吟詠会 真北賀篁洋 平成三十年二月四日(日)、たつの市御津町文化センターにおいて太子吟詠会

平成三十年三月十一日(日)、姫路市内のラヴィーナ姫路において第二十四回賀紫陽会主催の吟詠発表会が開催されました。白陽吟詠会「賀紫陽会」は春名賀紫陽先生のもと、田寺・山崎・百寿会・好古学園の四支部で構成されている。会員数六十三名のグループです。毎年春の吟詠発表大会と十二月の忘年会を開催して会員相互の親睦を深めています。当日は白陽吟詠会会長の野町



会別構成吟「あ、忠臣赤穂城」が開演。あつという間の十分間でした。しかし、会員の結束力は以前にも増して強くなりました。成績発表の時間が来る。会場での大きな歓声が舞台裏まで聞こえた時成功したのだと確信した。

今年の初吟会では二歳の子供さんの「九月十日」もあり和やかで楽しい一日でした。

今後は、新会員の入会を勧める努力を会員一同が力を合わせて行っていきたいと思います。趣味の世界である吟詠を楽しく賑やかに出来る吟詠会活動に徹していこうと思えます。

吟との出会いに感謝

東播吟詠会 小西 敏政

同で練習するのがとても難しい吟詠会です。昨年の記念大会に向けて構成吟のテーマは直ぐに決まりました。しかし練習するには皆さん苦労されたといいました。小さな子供さんの豆立方が短時間の練習で「和歌・風とそら」に挑戦し扇舞を披露して華を添えてくれました。

大会で使用する大道具は、自坊の本堂に抜けて約二か月余りかけて作り上げました。

大会当日の十分間が勝負です。吟詠

今から五年ほど前、家内の知り合いの方が「奥さん私詩吟をやっています。一緒にやられませんか」と声を掛けられました。「私そんなようしませんわ」とお断りしました。そのあとで「お宅のご主人やらないですか」と言われた。主人は球技は得意ですが文科系なんて無理無理と言ったんです。では「一緒に稽古に来ては」その言葉が最初の吟とのつながりでした。そのご縁で近くの藤原先生宅に伺いました。何をするのかも分からず、初日は生徒さんの紹介をして頂いた。皆様はよく勉強されていて、これは偉いことになったと自問自答して帰宅した。家内がどうやったと聞くので難しい初日やった

が一度やってみようと思うと返事した。それが吟の始まりでした。

毎週先生宅で初伝の練習に励みました。教本を購入し先生に漢詩の意味を一字一行説明を受ける。作詩にかけた作者の思いを理解して腹筋を使って稽古してと言われる。腹筋を使う意味が理解できず随分苦勞しました。先生から喉から声を出しているから途中で詰まる。腹筋腹筋と口癖のように指摘された。今度近くの会場で詩吟の大会がある。参加しませんかと。出席の依頼があった。厳しい教えと愛情ある指導稽古で上手くなると思っていて車中大声で発声した。興味本位で大会に出席することにしました。会場で目にした年配の男性の毅然とした態度、女性陣の着物姿の美しさ、吟を詠う凛々しい姿です。歳をとってもこのような姿になりたいと憧れました。

今まで地域のボランティアを十年ほどしました。色々な世間を見て来ましたが。この詩吟の世界に感銘を受けた。奥伝まで藤原先生の指導でスムーズに出来ました。これから先はどうなることかと心配ですがやってみようと思えました。

幸い家内も日舞を十五年やっています。理解をしてくれて大変勝手なよい環境です。諸先輩方にお世話になります。ご指導を頂きながら吟詠を楽しみたいと思えます。



毎週楽しく取り組んでいます

中播吟詠会 松本賀昇

中播吟詠会は総数十四名で会員が少ない吟詠会です。主な活動については、香寺中央公民館での毎週一回二時間の練習です。現状では他の吟詠会のような初吟会、研修会、研修旅行、カラオケ大会、食事会なども行っていない。活動の内容は、公民館で夜の部八名、昼の部六名に分かれて毎週楽しく取り組んでいます。会員は少ないですが詩吟に対して取り組む姿勢は真摯で、近畿本部の合吟チームに男子二名女子六名が参加しています。六名の方が詩舞にも取り組み町の文化祭や姫路吟詩舞道大会に出場して活躍しています。

これからの春・夏に向けて県連予選大会、壮年大会、吟士権予選大会、ランク別大会等に出場し日頃の研鑽の成果を図っていかうと練習に励んでいます。今後の活動については、会員相互の親睦と吟の向上を深めるべく研修会を兼ねた発表会をしていきたい。会員の少ない吟詠会では限界もあります。

出来る限り本部の諸行事を主体に指導者の研修会、歩こう会、バス旅行、講演会等に積極的に参加して、楽しい吟詠活動ができるよう話し合いました。今後ともよろしくご指導をお願いします。

縦に一人一声

私と孫で実を結び

しらすぎ吟詠会 藤原賀穂穂

私は詩吟を始めて大勢の方に出会いました。世間知らずの私は色々のことを学ばせて頂きました。その当時は会員数も多くいて和氣藹々で和みもあり楽しかった。

私達のしらすぎ吟詠会では毎年開催する初吟会、夏季大会と様々な行事があります。大会に出場し優勝のトロフィーを貰ったこともあります。

嬉しくて励みにもなり、毎日のように声を出して頑張りました。もちろん失敗も度々あり落ち込んだ時もあります。そんな時、福田賀穂陽先生から「孫さんに教えたあなたも勉強になるよ」と言われ、私が教えられるのか不

安がありました。

孫に「お祖母ちゃんと一緒に詠ってみる」と聞く。「えー」とびっくり顔になる。間もなくしてコンダクターを触りだして音を出して遊んでいる。まだらでもなさそう。

「お祖母ちゃんと一緒に詠ってみる」と孫が言う。紙に書いて持たせてやりました。すると音（キー）を弾いて譜を読んで調子をとっている。数か月して幼少年の大会があるから出ると聞く。「うん」と言う。

びっくりして嬉しかったです。昨年の「吟を楽しむ会」香寺町公民館で初めての出場。緊張している様子が伝わってくる。独吟を立派に吟じました。最後には磯部宗家や魚住会長からご褒美を頂く。その顔の表情は嬉しそうでした。友達も出来て帰る際にはまたねの挨拶を交わす。これからは素直に育ち詩吟を楽しく続けられることを願います。気長に見守りながらサポートしていきたい。

研修会

北辰吟詠会 小島賀征肇

北辰研修会を二月十二日(振替休日)東市民センターに於いて、肥塚北辰会長・石井副会長の指導により実施。

肥塚会長挨拶は、人の前で一回でも多く吟じて慣れることが大切。この緊張感があつてこそ吟じ方も伸びて行く。石井副会長は、吟じ方の大切さは、



強さ・品格(気品)・礼節(武士道に繋がるもの)であり、そして作者の気持ち(詩情)になって吟じること。音階のみを追うだけでは華麗ではないとも。本年度の競吟・昇格課題吟を主に各人が吟じ、指導を受け、とても参考になった。

吟じる方の殆どが、本年初めて人前の吟詠とあつてか、少々緊張の度合いが高まっていた様子に思えた。特に顔なじみが面前の視聴者ということもあり、舞台とは違った感触も良い経験であった様に思われる。

三月二十五日(日)の県連一次予選を皮切りに、各種競吟大会が始まります。それぞれの目標に向かって稽古のポイントを消化し、自分なりに楽しみ満足できる吟詠が出来ることを願う次第です。結果は自然についてくる。皆様の御健闘を祈念します。

たためである。市役所通りを西に進み、手柄山温室植物園の登り口近くで異彩を放って咲いているこの桜を一目ご覧あれ。

(姫路市立水族館 三木 徹)



手柄山中央公園にて

現在桜と言えば、ピンク色のソメイヨシノかも知れない。日本各地で桜満開のニュースとして見るのは大抵この種類である。手柄山中央公園も春休みにはソメイヨシノの桜見でにぎわう。この桜が桜吹雪で一斉に散り終えて、新緑の若葉を出す4月下旬にひっそりと白い花を満開にする桜がある。故室井先生が発見し、続・姫路の生物に紹介された桜で、姫路の天然記念物候補として記された一本である。この桜を見つけるのに10年近くかかったが、ソメイヨシノと開花日が全く違うのにしばらく気づかなかっ

姫路市ふらり自然散策

フタエカスミザクラ